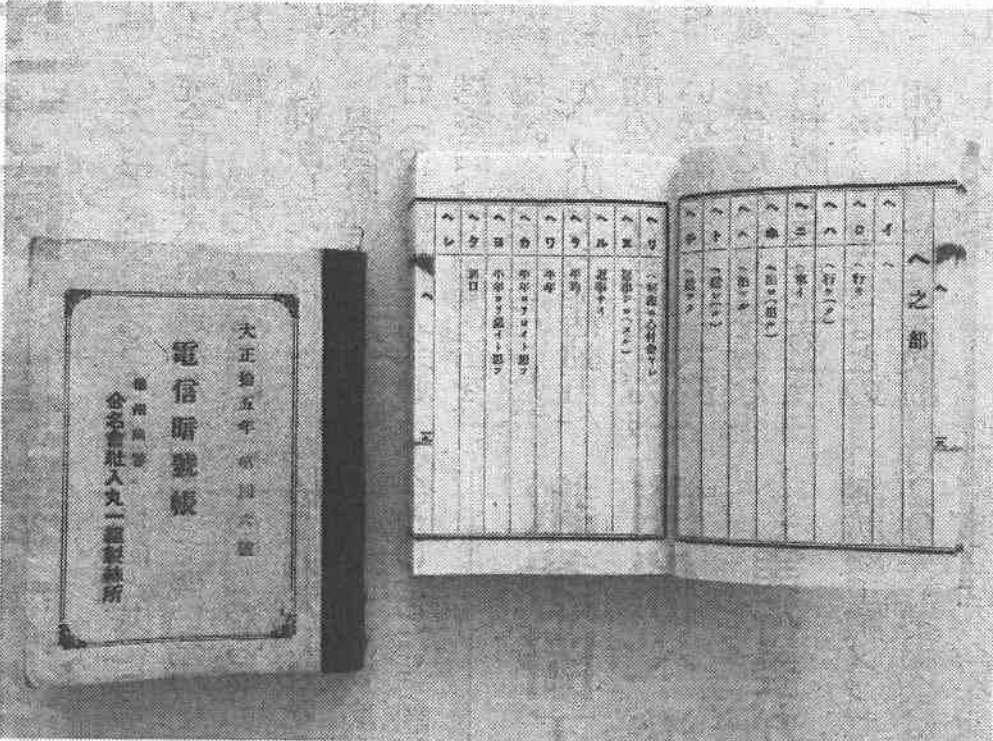


紙上で Museum on the newspaper 博物館

運ぶ。 vol.7
-蚕糸業を支えたモノの流れ-
企画展から
岡山蚕糸博物館 OKAYA SILK MUSEUM



情報を運ぶ ▲▲製糸工場電信暗号簿 大正時代

言日... 行政チャンネル「シルキーチャンネル」などの放映を計画してい

動にも制限がかかる。市危機管理室は「昨年

の台風19号で不安を感じ

を反映した追熟場戸や

防災関連施設などを紹介。自宅からの避難経

路や危険箇所を書き込

に合せてた洋防回と巨

主防災組織の訓練も中

止に。例年は土のうの

作り方や効果的な積み

区での部印全を実施す

る。市危機管理室では

「外出自粛で家族が家

にそろう場面があると

専念に11

で開いた。

製糸業は、生糸価格の8割を原料の繭代が占める厳しいものです。そのため製糸家は、他社より安く良い繭をたくさん買い、できるだけ相場の高い時に生糸を多く売らなければ利益を上げることはできません。この時に必要なのが、早い情報伝達と決断力です。

今なら電話やメールでばつと連絡できますが、当時の最速の伝達手段は電報。その電報を他社に知られず確実に、なおかつ安く伝えるため、各工場では独自の暗号を使いました。例えば、このページの「ヘカ」は「平均より良いと思う」を表します。2文字でこの情報量。他ページで「ウシ タウ」と組み合わせると「養蚕模様悪し、高い買入れ見送れ」となります。

この暗号簿は300ページにも及び、個人名や金額、地名など全て2文字の片仮名で記され、使い込んでぼろぼろなものもあります。現場の最前線に立つ先人たちのほらはら感まで伝わってきそうな資料です。

ウラ



新倉区のに指定されソウが、見保護活動区文化財産よると、群で同区のみ